

増毛山道の復元完了

増毛別荘 石狩幌間 8年かけ27キロ開通

江戸時代末期に交易路などとして開削された「増毛山道」の復元作業が16日、完了した。復元事業に携わるNPO法人増毛山道の会(伊達東会長)や関係者による開通式が同日、石狩市側の山道で行われ、関係者が最後に残っていた10区間のササを刈り取り、固い握手を交わした。

増毛山道は交易路として、また北方警備に当たる人員物資の輸送路として、安政4年(1857年)に浜益、増毛両場所の請負人だった伊達林右衛門が、私費を投じて現在の増毛町別荘―石狩市浜益区幌間の27キロを整備。明治期には貴重な陸路として活用されたが、戦後は使用されずササ

に覆われていた。同法人と留萌振興局が連携して復元に当たり、平成22年に別荘―岩尾分岐間の約11キロ、26年には岩尾分岐―雄冬山山頂付近の約5キロを復元。今年、雄冬山山頂付近から石狩市浜益区幌までのう

ち、林道など歩行可能な部分を除いた約4・5キロの復元作業を進めてきた。

開通式には、同法人や留萌、石狩両振興局、石狩市、増毛町の職員ら25人が参加。増毛と石狩の双方から山道を登り、境界付近に残したササをエンジン付きの刈り払い機で刈り、スタ

ートから8年余りの作業が完了。参加者全員で記念写真を撮影した。

伊達林右衛門の子孫である

る伊達会長は「関係各位の協力により、先祖の偉業を現代に復元することができた。心から感謝したい」と述べた。

同法人事務局では今後、維持管理の方法などについて関係機関・団体と協議するほか、一般への開放に向けた案内標識の設置など多くの人にトレッキングを楽しんでもらえる環境整備を進める考えだ。

(長谷見直也)



増毛山道の全線復元へ最後のササ刈りを行う増毛山道の会の会員